

平成21年度(2009年度)事業報告(総括)

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益を補うとともに、限られた資金を最大限に活用するように創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を広島大学と連携して実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。また、市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。更に、小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(財)広島市ひと・まちネットワーク等と共同で開催しました。

講演会は、茂木 健一郎氏を講師としてお招きし、「脳を育てる習慣」と題してお話をいただきました。約2,000名の聴講者があり、好評を得ました。また、広島地区の大学3校で、「能力開発特論」、「ボランティア活動」等をテーマに講義を行いました。

科学技術振興関係

① 研究助成

機械、電子・情報、材料の3分野を対象に26件3,000万円の助成を行いました。(国内/公募)

② 科学わくわくプロジェクト

小中高生の科学体験の普及を目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学と連携して実施しました。

③ 事業助成

研究者による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件150万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

青少年健全育成関係

① 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究5件に計400万円の助成をしました。(国内/公募)

② 市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動32件に計800万円の支援をしました。

(広島県・山口県/公募)

③ 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、3施設で2団体と共催しました。

④ 講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、茂木 健一郎氏を講師に迎え実施しました。

⑤ 大学寄付講義

広島大学大学院「能力開発特論」、広島文教女子大学「国際協力論(ボランティア活動)」、安田女子短期大学「現代社会論」、計3大学で講義を行いました。

事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第25回(2009年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③材料の3分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法

研究者の所属する機関または部局等の代表者による推薦方式

(d) 推薦依頼先

国・公・私立大学の理工学系部局の代表者(学部長、研究科長、研究所長等)、および高等専門学校
の校長(全国131機関)

(e) 助成金総額 3,000万円

(f) 助成件数 25件程度

(g) 1件当り助成金額 上限200万円

(h) 助成期間 1年または2年

(i) 募集期間 2009年4月20日～6月10日

(2) 応募状況

締切りまでに合計325件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

| | | |
|------------------|--------|-----------|
| (a) 地域別 | ・中部以東 | 168件(51%) |
| | ・関西以西 | 157件(48%) |
| (b) 分野別 | ・機械 | 72件(22%) |
| | ・電子・情報 | 69件(21%) |
| | ・材料 | 184件(57%) |
| (c) 若手研究者(40才以下) | | 227件(70%) |

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月24日、25日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として26件が選出され、9月25日開催の第79回評議員会および第93回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

2009年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移－科学技術振興関係－

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

| | 本年度（第25回） 2009年度 | 第24回 2008年度 | 第23回 2007年度 |
|-----------|---------------------|----------------|----------------|
| 応募件数（件） | 325 | 321 | 305 |
| 助成件数（件） | 26 | 28 | 30 |
| 助成比率（%） | 8.0 | 8.7 | 9.8 |
| 助成金総額（万円） | 3,000 | 3,500 | 3,300 |

(地域別状況)

| 地 域 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|----------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | 件数 | 内数 | 件数 | 内数 | 件数 | 内数 |
| 中部以東（件） | 168 | 14 | 144 | 13 | 119 | 11 |
| 近畿（件） | 77 | 6 | 81 | 6 | 79 | 9 |
| 中国・四国（件） | 50 | 4 | 65 | 6 | 61 | 6 |
| 九州・沖縄（件） | 30 | 2 | 31 | 3 | 46 | 4 |
| 合計（件） | 325 | 26 | 321 | 28 | 305 | 30 |

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

| 分 野 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|----------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | 件数 | 内数 | 件数 | 内数 | 件数 | 内数 |
| 機械（件） | 72 | 6 (2) | 64 | 7 (5) | 67 | 7 (5) |
| 電子・情報（件） | 69 | 6 (4) | 79 | 7 (4) | 69 | 7 (3) |
| 化学系材料（件） | 92 | 7 (5) | 92 | 7 (6) | 81 | 8 (6) |
| 物理系材料（件） | 92 | 7 (6) | 86 | 7 (4) | 88 | 8 (7) |
| 合計（件） | 325 | 26 (17) | 321 | 28 (19) | 305 | 30 (21) |

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時
()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第25回(2009年度) マツダ研究助成一覧 —科学技術振興関係—

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

| 研究題目および研究概要 | 研究代表者 | 助成金額 (万円) |
|---|----------------------------------|--------------|
| 【機械】 | | |
| 極小径光ファイバプローブを用いたマイクロ三次元形状測定機による微細形状のナノ計測 MEMS・マイクロマシン用部品や微細金型などの立体的で微細な三次元形状が増加しており、これらを精密に測定するニーズが増加している。そこで、直径5 μ mの極小径の光ファイバの接触式プローブを用いることにより、10 μ m以下の溝や穴を有する微細形状を10nmの分解能で測定可能な装置の開発を目指す。これにより、マイクロ部品の精度保証・各機器の高機能化が可能になり超精密加工技術の基盤技術となることが期待できる。 | 村上 洋 鹿児島大学大学院理工学研究科助教 | 120 |
| 磁気浮上アクチュエータを用いた電極の最適駆動法および高速・微細放電加工の研究 放電加工の高速・高精度・微細化の実現のため、申請者らは、既存の放電加工機に取付け可能な5自由度制御型磁気浮上アクチュエータを提案・試作している。本研究では、磁気浮上アクチュエータを用いた放電加工の高速化、高精度化、微細化を目指す。具体的には、①異常放電回避を目的とした加工屑の排出、気泡流動性の改善のための、電極の最適な駆動方法、②放電現象のモデルを考慮した、精密な放電加工用制御系の構築、③高アスペクト比の微細穴の高速・高精度な加工、およびマイクロ構造物の創成加工、を検討する。 | 張 暁友 日本工業大学准教授 | 110 |
| 垂下式柔軟浮体型海洋エネルギー発電システムの開発 本研究では、海洋エネルギー(波、潮流、渦)を総合的にトラップ(吸収)し、電気エネルギーに変換することが可能な「垂下式柔軟浮体型海洋エネルギー発電システム」を開発する。本システムは、多数の弾性圧電デバイス(独自開発済)が組み込まれた「垂下式柔軟浮体ユニット」で構成されている。このユニットは、海洋エネルギーの作用によって、しなやかに弾性変形し、ユニット内に蓄えられた歪みエネルギーを電気エネルギーに変換できる。本申請では、このユニットの発電性能、機械的運動・変形特性を明らかにする。 | 陸田 秀実 広島大学大学院工学研究科准教授 | 100 |
| 光ピンセット技術を適用した自由燃料液滴の蒸発、燃焼挙動の観察 近年のエネルギー問題や環境問題に対して、燃焼器内における燃焼現象の理解が求められている。噴霧燃焼の基礎である液滴燃焼において、多くの実験は燃料液滴を空間的、時間的に固定して観察するため、液滴を石英線などの細線に懸垂して実験を行っているが、この方法では液滴が細線と接触しているため細線からの熱流入や液滴界面の変形などの影響がある。本研究では近年注目されている「光ピンセット技術」を燃料液滴の懸垂に適用することを提案し、その手法の開発とそれを用いた自由液滴の蒸発、燃焼挙動の観察を行う。 | 今村 宰 東京大学大学院工学系研究科助教 | 160 |
| McKibben型空気圧ゴム人工筋の非線形特性の数理的説明(同定)およびその力支援制御モジュールの開発 アクチュエータを作業・動作時の補助動力として使い、操作者の負荷軽減および能力拡大を図るパワーアシストが注目されている。そのなかで、McKibben型空気圧ゴム人工筋は、柔軟性、軽量性、出力重量比などの性能面で優れている。しかし、空気圧による人工筋の動きそのものが非常に複雑な非線形特性を示すことから、的確なパワーアシスト制御が要求される。そこで本研究では、リハビリ訓練や作業者の負荷軽減を目的とするパワーアシストに適した制御手法を開発し、人間の動きに沿ったより柔軟な動作支援が可能な力制御システムを開発することを目的とする。 | 小木曾 公尚 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教 | 100 |
| 粒状物質の高速衝突貫入特性と力学応答 秒速10mから2kmという広い速度域において、高速飛翔体衝突における砂等の粒状物質の衝突貫入特性および力学応答を実験により調査・分析し、数値解析に適用できる材料モデルを構築することを目標とする。本研究は、物体の高速貫入現象の基礎を研究する内容ではあるが、ここで得られた成果は、サンプルリターンなどの惑星探査技術の確立、新しい地質調査方法の開発、高速飛翔体に対する防御技術の確立、ダイラタンシー現象・チキソトロピー現象を利用した製品の開発などの応用技術研究に利用できると確信する。 | 渡辺 圭子 大阪大学大学院基礎工学研究科助教 | 120 |

| 研究題目および研究概要 | 研究代表者 | 助成金額 (万円) |
|--|--|--------------|
| 【電子・情報】 | | |
| 有機分子ドーパ型ポリマ光スイッチの超低電圧駆動 ◇ | 榎波 康文 広島大学ナノデバイス・バイオ 融合科学研究所特任教授 | 100 |
| 光スイッチのスイッチング速度60GHz、駆動電圧を50mV（ニオブ酸リチウムLNの1/100）、消費電力0.05マイクロW（LNの1/10000）を実現し、光通信及び光接続に必要な電気光変換での消費電力を低減し、環境問題に貢献する。さらに、脳機能を解明するため、本光変調器により神経活動電位(20mV)波形の光強度波形への変換を将来実現し、脳細胞からの神経電位信号を高いS/N比で光信号に変換することによる新しい医療応用や神経障害により機能しなくなった手足を動かす応用研究へと発展させる。 | | |
| 五覚を有する人間に近い新しい次世代型の義肢の開発に関する研究 | 島田 邦雄 福島大学共生システム理工学類准教授 | 100 |
| より人間に近い人工皮膚と目されるMCF（磁気混合流体）ゴムを使って、人間の五覚を有する義肢の開発を行うものである。すなわち、本申請者が開発した触覚等の機能を有するMCFゴムを義肢に装着することによって、健常者と同じ五覚を有する人工皮膚を搭載した義肢の開発を行う。これにより、科学技術が福祉や文化へも貢献するために、福祉の点において、調和のとれた科学技術の向上を目指し、広く社会の発展に寄与することを目指す。 | | |
| 熱光起電力デバイスの高効率化を目指した創成的最適設計法の開発 ◇ | 泉井 一浩 京都大学大学院工学研究科助教 | 120 |
| 近年、廃熱からのエネルギー回収する熱光起電力デバイスが注目されている。これは高温に加熱された物体から出る輻射光を光電変換セルに入射し、起電力を得るものである。しかし、光電変換セルは短波長域の入射光しか電力に変換することができず、長波長域の電磁波を入射させると発電効率が低下する。本研究では、有用な波長の電磁波のみを光電変換セルへと導くために、抜本的な構造性能の向上が可能なトポロジー最適化法を用いてエミッタとフィルタの設計を行い、高性能な熱光起電力デバイスを開発する。 | | |
| 触覚の確率共鳴に関する研究 | 大岡 昌博 名古屋大学大学院情報科学研究科教授 | 160 |
| 接触して擦ることによってセンシングする触覚では、環境ノイズの混入が避けられない。確率共鳴現象とは、ノイズの混入により逆に感度が高まる現象であり、非線形特性を示す数多くの物理現象において観察される。本研究では、この確率共鳴現象を活用してノイズにより感度を高めることのできる新しい概念の触覚センシング法の開発を目的としている。そのために、心理物理実験法・脳計測とFEM解析より得られた知見から触覚の確率共鳴現象の発生機構を解明して、それに基づきモデル化を行う。 | | |
| 3相インバータ1台のみを用いた1自由度制御形ベアリングレスモータ駆動システム ◇ | 朝間 淳一 静岡大学工学部准教授 | 110 |
| ベアリングレスモータは、回転と磁気浮上が同時に可能な電磁回転機である。別々の磁気軸受とモータを一つに組み合わせた構造と比較して、小形・低コスト等の長を有する。従来、ベアリングレスモータの小形・低消費電力化のため、磁気浮上の制御自由度を最小の1としても、通常、浮上用単相インバータ1台、回転用に3相インバータ1台、合計2台必要であった。本研究では、システム全体の小形・低消費電力化のため、3相インバータ1台のみで回転と磁気浮上が可能な新しい1自由度制御型ベアリングレスモータとその駆動システムの実現を目的とする。将来的には、人工衛星用アクチュエータや軸流式血液ポンプへ応用する。 | | |
| フレキシブルマニピュレータに内在する柔軟性を活用した省エネルギー軌道計画法の確立 ◇ | 阿部 晶 旭川工業高等専門学校准教授 | 100 |
| 我々は身近に「棒高跳び」や「釣竿」等、弾性エネルギーを上手に利用することで、小さな駆動エネルギーから大きなパフォーマンスが得られることを経験的に知っている。本研究では、フレキシブルマニピュレータのPick-and-Place作業における位置決め制御を考え、マニピュレータに内在する柔軟性を積極的に活用した省エネルギー軌道計画法の確立を目指す。そして、剛体マニピュレータよりも飛躍的な省エネルギー化が図られる可能性を探り、その力学原理を解明することを目的とする。 | | |

| 研究題目および研究概要 | 研究代表者 | 助成金額 (万円) |
|--|------------------------------------|--------------|
| 【化学系材料】 | | |
| 高温高压水反应用の高性能グリーン固体触媒の開発 ツール ◇ | 川村 邦男 大阪府立大学大学院工学研究科助教 | 100 |
| 超臨界水などの熱水は、合成化学や環境浄化反応の安価・無公害な媒体として注目されている。熱水反応プロセスを実用レベルの高効率・省エネルギー・省資源型のプロセスとして確立するためには、固体触媒の開発が不可欠である。しかし、固体触媒の良い研究開発ツールはなかった。本研究では、我々の熱水フローリアクター技術に基づいて、熱水反応の高性能固体触媒の開発ツールを確立する。このため、ペプチド生成反応の効率を飛躍的にアップする天然鉱物触媒を開発し、本法の有用性を示す。 | | |
| ホウ素錯体を用いた有機n型半導体の開発 ◇ | 小野 克彦 名古屋工業大学大学院工学研究科助教 | 100 |
| 高度情報化社会の実現に向けて、有機電界効果トランジスタが注目されている。これまでに様々な材料が開発されてきたが、高移動度を示す有機n型半導体は少ない。このため、新しい物質の研究開発が必要となっている。我々は、ホウ素錯体を有機 π 電子系に組み込むことにより、n型半導体特性を示す物質の開発に成功した。これはホウ素錯体が電子受容部位として作用した結果である。錯体合成法は簡便であり、多様な分子構造への適用も可能である。本研究では、高いn型半導体特性を示すホウ素錯体の開発を行う。 | | |
| 擬ロタキサン結晶の相転移反応を動作原理とする光 機能性材料の創出 | 須崎 裕司 東京工業大学大学院総合理工学研究科助教 | 100 |
| 超分子化合物は分子サイズの次世代デバイスとなりうる可能性が示唆されているが、その集積方法や、固体状態での機能に関する研究がほとんどない。本研究では、大環状化合物を軸状の分子と絡み合わせて擬ロタキサン構造を形成させながら固体化させた、超分子結晶を研究対象とする。環状と軸状の分子それぞれが有する芳香族部分を固体中で平行に積み重ねて集積し、その複屈折による光機能性を結晶に付与する。この光物性を結晶相転移反応と関連付けて可逆に制御し、これを動作原理とする光学素子の開発を目指す。 | | |
| 拡張 π 電子系材料創出の基盤となる多官能性ホウ素 化合物の新合成技術開発 | 吉田 拡人 広島大学大学院工学研究科准教授 | 120 |
| アラインやジホウ素化アセチレンのような反応性炭素-炭素多重結合種を駆使した新反応群を開発し、未踏の多官能性有機ホウ素化合物合成のための新技術を確認することを目的としている。特にクロスカップリング反応で π 共役系を連続的に集積できる1,2-ジホウ素化芳香族化合物創出を指向した反応開発に焦点を絞り、有機ELや有機トランジスタのような次世代有機エレクトロニクス材料の機能発現を担う拡張 π 電子系分子創製を合成化学的側面から強力に推進する。 | | |
| 炭素-炭素三重結合で構成される巨大環状有機分子 を用いた電導性材料の探索 ◇ | 長谷川 真士 北里大学理学部助教 | 100 |
| アセチレンとヘテロ原子で拡張されたラジアレン骨格をもつ新規分子を開発し、電気伝導やトランジスタ特性などを担う新しい炭素素材を開発する。ラジアレン骨格は酸化-還元で環構造が変化し巨大なベンゼン環としてふるまうことが期待でき、周縁部のヘテロ原子との相乗効果によって分子集合能と電気伝導能を得ることが期待される。また、中央に空孔をもつので小さな分子を包摂することも可能である。今回提案する新規分子を利用して多機能性の有機材料の中核となる分子を開発するのを期限内の目的としている。 | | |
| 中温作動型SOFCを目指した球殻状電極材料の作成と 電極細孔構造制御 ◇ | 板垣 吉晃 愛媛大学大学院理工学研究科助教 | 170 |
| 本研究は、任意の空洞サイズを有するLSM-YSZ複合球殻粒子の作成を行い、中温作動型燃料電池（IT-SOFC）のカソード材料としての展開を図るものである。本材料は、サイズ制御された高分子ビーズをコア粒子として用い、その表面にLSM-YSZ複合微粒子を析出させ、焼成するという新たな手法により得られる。本材料をカソード材として用いれば、任意の細孔構造を有する複合カソード膜が形成でき、高いガス拡散性と触媒活性を併せ持った低過電圧型カソード膜の創出が実現可能である。 | | |
| 自動車の燃費性能向上に役立つスチレンブタジエン 共重合ゴムの加硫に関する基礎研究 ◇ | 池田 裕子 京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科准教授 | 110 |
| 乗用車用タイヤに最も多く使用されているスチレンブタジエン共重合ゴムの網目不均一構造を小角中性子散乱測定により定量的に明らかにし、赤外吸収スペクトル測定や示差走査熱量分析結果とあわせて考察することにより、スチレンブタジエン共重合ゴムの加硫反応のメカニズムを解明する。そして、網目不均一構造の明らかな架橋体の力学的物性を評価して、構造パラメータとの相関を探究することにより燃費性能の良いタイヤ設計に役立つゴム材料設計の指針を提出する。 | | |

| 研究題目および研究概要 | 研究代表者 | 助成金額 (万円) |
|---|------------------------------|--------------|
| 【物理系材料】 | | |
| 原子的平坦ダイヤモンド半導体表面を用いたMIS構造の作製と評価 <p>◇</p> <p>ダイヤモンドは、物質中最高の硬度や熱伝導率など優れた物理的特性を有しているだけではなく、SiやSiCよりも高い電子及び正孔の移動度を有し電子デバイス材料としても優れている。また、ダイヤモンドの絶縁破壊電界は現在用いられているSiや次世代パワーデバイス材料であるSiC、GaNよりも高いため、未来型極限パワーデバイスの材料として期待されている。本研究では、ダイヤモンドパワーデバイスの実現を加速させるために、その基本構造の一つであるMOS構造に着目し、独自の技術である原子的平坦ダイヤモンド表面を用いて理想界面特性の実現を狙う。</p> | 徳田 規夫 金沢大学理工研究域助教 | 200 |
| アントラセンの光二量化反応を基盤とする光運動材料の研究 <p>◇</p> <p>光をエネルギー源として運動する材料は、遠隔操作による精密な制御が可能であり、駆動部自体に外部配線や電極を取り付けることなく小型化も容易であることから、次世代の有望なアクチュエータの1つとして注目されている。本研究では、光によって二つの分子が結合する簡単な分子を用い、新規の光運動高分子材料を創成し、反応前の色素に「光反応」を、二量化分子に「光-力変換」を分担させることにより、効率的な光アクチュエータを開発する。また、開発した光アクチュエータを用いたデバイスについても検討を行う。</p> | 近藤 瑞穂 兵庫県立大学大学院工学研究科助教 | 100 |
| 大面積高品質チューナブルコロイドフォトリック結晶の作製に関する研究 <p>◇</p> <p>コロイド微粒子を3次元に周期配列させたコロイド結晶はフォトリック結晶の一種であり、安価で大量生産可能なプロセスで作製できることから、フォトリック結晶の実用化材料として注目されている。本研究では、我々が独自に開発した流動による配向単結晶化技術を用いて、大面積で高品質なコロイド結晶を作製し、さらにフォトリック結晶の実用化に不可欠なストップバンド周波数の制御を、コロイド結晶作製後に行える、チューナブルコロイドフォトリック結晶の開発を試みる。</p> | 金井 俊光 横浜国立大学大学院工学研究院助教 | 100 |
| フラーレン-ポリチオフェン電解重合複合膜を用いた有機太陽電池の開発 <p>◇</p> <p>p型およびn型有機半導体材料を組み合わせた太陽電池は次世代のエネルギー源として注目を集めている。本研究では、電解重合法によってポリチオフェン(p)-フルラーレン(n)複合膜を電極上に形成して、新規な有機太陽電池の実現を目的とする。より具体的には、チオフェン部位を備えたフルラーレン誘導体を合成し、対応するチオフェン類と電解共重合によって複合膜を得、p-n接合構造や接合面積を自在に制御できる系の実現を目指す。</p> | 秋山 毅 九州大学大学院工学研究院助教 | 100 |
| 環境にやさしい希土類元素部分置換による高性能磁気冷凍材料の開発 <p>◇</p> <p>環境にやさしい磁気冷凍の実現に向けて、現在最も実用的な磁気冷凍材料として注目されているLa(Fe_xSi_{1-x})₁₃の希土類元素部分置換を行い、常磁性から強磁性への磁場誘起1次相転移である遍歴電子メタ磁性転移に伴い発生する磁気熱量効果の向上およびヒステリシス損失の低減などの磁気冷凍材料特性の改善に関する研究を行う。部分置換可能な希土類元素の探索や、希土類元素部分置換が電子状態におよぼす影響の実験的評価を行い、それらの基礎データに基づいた合金設計を行う。</p> | 藤枝 俊 東北大学多元物質科学研究所助教 | 100 |
| 酸化物結晶のツイスト歪を利用した圧電性単結晶薄膜のエピタキシャル成長 <p>◇</p> <p>情報通信の大容量化・多機能化に伴い、弾性波デバイスの低損失化・広帯域化を実現するため、現状の酸化物結晶LN、LTよりも大きな圧電性を有する圧電薄膜材料が強く求められている。本研究では、LN、LTのツイスト歪を利用して形成されたエピタキシャル成長面上に、高周波スパッタにより、LN、LTを超える圧電性を有する五酸化タンタルTa₂O₅単結晶薄膜を作製し、この基板構造を超広帯域・低損失弾性波フィルタに応用することを目標としている。</p> | 垣尾 省司 山梨大学大学院医学工学総合研究部准教授 | 100 |
| 環境にやさしいシリコン系材料からなる紫外発光デバイスに関する基礎研究 <p>◇</p> <p>本研究では、環境にやさしく資源の枯渇の心配がほとんど無いSi系紫外発光材料の発光効率の向上を目指す。申請者はこれまでに、Si/SiO₂系多層膜が、紫外発光を示すことを実証しているが、発光デバイスへの応用を考えるには、発光強度を向上させる必要がある。更に、このSi/SiO₂系多層膜は、赤色から近赤外域にかけての発光ピークも発現するが、これは抑制されることが望ましい。そこで、紫外発光効率の向上及び紫外発光ピークのみを発現を目指し、最適な作製条件の探索及び周期構造の導入を検討する。</p> | 三浦 健太 群馬大学大学院工学研究科助教 | 100 |
| 合 計 | 26 件 | 3, 000万円 |

I-2. 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組むブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有すると共に、教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待されます。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成され、地域のネットワークづくりを目指している。

2009年度からジュニア科学塾を年間5回の講座に、科学塾を広島大学の研究室に入って研究活動を行う科学塾研究室として、より継続的な学びができる塾に改善しました。

(2) 助成対象

助成先：広島大学科学わくわくプロジェクト研究センター

研究代表者：広島大学大学院教育学研究科 教授 林 武広

(3) 主要事業

① サイエンスレクチャー（広島会場）：2009年8月2日 開催

- ・講師：広島大学大学院先端物質科学研究科 高橋 徹 准教授
- ・テーマ：「アニメの世界は現実となるか」、中学生対象（100名）

② サイエンスレクチャー（福山会場）：2009年12月26日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 黒川 隆志 教授
- ・テーマ：「スポーツと運動エネルギー」、中学生対象（50名）

③ ジュニア科学塾

第1回：2009年5月31日開催

- ・講師：ジュニア科学塾指導グループ
- ・テーマ：「水溶液のヒミツ」、中学生対象（24名）

第2回：2009年8月8日・9日開催

- ・講師：広島大学大学院理学研究科附属臨海実験所 安井 金也 教授
- ・テーマ：「海洋生物に関する観察・実験」、中学生対象（24名）

第3回：2009年10月25日開催

- ・講師：ジュニア科学塾指導グループ
- ・テーマ：「光の分析」、中学生対象（22名）

第4回：2009年12月23日開催

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「東広島天文台での天体観測教室」、中学生対象（22名）

第5回：2010年2月14日開催（オプション講座）

- ・講師：ジュニア科学塾指導グループ
- ・テーマ：「バレンタイン特別企画」、中学生対象（13名）

④ 科学塾研究室

(2009年5月9日開講、11月17日「理学部中学生、高校生科学シンポジウム」にて発表)

天文分野

- ・塾 長：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「あなた望遠鏡で観測する太陽系の星・銀河系の星」、高校生対象 (6名)

生物分野

- ・塾 長：広島大学大学院理学研究科 道端 齋 教授
- ・テーマ：「金属イオンを高濃度に濃縮するホヤ」、高校生対象 (1名)

物理分野

- ・塾 長：広島大学大学院先端物質科学研究科 鈴木 孝至 教授
- ・テーマ：「極低温の不思議」、高校生対象 (1名)

⑤ 小学校理科ひろば：

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授 他
- ・テーマ：模擬授業「電磁石の利用」他

(4) 助成金額 400万円

I-3. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

第25回（2009年度）は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。なお、本年度からは募集期間を前期・後期の年2回とし、助成金総額を50万円増額の150万円、助成件数5件増の15件としました。

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校に所属（常勤）し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2009年6月から2010年5月に実施される

- ・学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・研究者による「科学体験」事業の開催
- ・「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法 事業責任者による申請方式

(d) 対象地域 中国地方

(e) 助成金総額 150万円

(f) 助成件数 15件程度（前期：10件程度、後期：5件程度）

(g) 1件当たり助成金額 10万円

(h) 助成期間 2009年6月から2010年5月

(i) 募集期間
（前期）2009年4月1日～4月22日
（後期）2009年7月1日～7月22日

(2) 応募・選出状況

本年度は、前期17件、後期9件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

| | | | |
|------|----|------|----|
| ・鳥取県 | 1件 | ・広島県 | 8件 |
| ・島根県 | 4件 | ・山口県 | 5件 |
| ・岡山県 | 8件 | | |

(b) 分野別

| | |
|---------------------|-----|
| (1) 研究会等の開催 | 2件 |
| (2) 体験事業の開催 | 22件 |
| (3) 成果出版物の発刊・教材等の試作 | 1件 |
| (4) その他 | 1件 |

(c) 若手研究者（40才以下） 14件（54%）

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月20日、7月24日開催）において慎重に審査された結果、助成候補として15件が選出され、第78回評議員会および第92回理事会（6月19日開催）ならびに、第79回評議員会および第93回理事会（9月25日開催）において報告されました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

| | 本年度(第25回) 2009年度 | 第24回 2008年度 | 第23回 2007年度 |
|------------|---------------------|----------------|----------------|
| 応募件数 (件) | 26 | 13 | 12 |
| 助成件数 (件) | 15 | 10 | 10 |
| 助成比率 (%) | 57.7% | 76.9% | 83.3% |
| 助成金総額 (万円) | 150 | 100 | 100 |

(地域別状況)

| 地 域 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|-----------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 応募件数 | 助成件数 | 応募件数 | 助成件数 | 応募件数 | 助成件数 |
| 鳥 取 県 (件) | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| 島 根 県 (件) | 4 | 2 | 3 | 3 | 3 | 2 |
| 岡 山 県 (件) | 8 | 6 | 3 | 3 | 1 | 0 |
| 広 島 県 (件) | 8 | 3 | 5 | 2 | 2 | 2 |
| 山 口 県 (件) | 5 | 3 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| 合 計 (件) | 26 | 15 | 13 | 10 | 12 | 10 |

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

| 分 野 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|-----------------------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 応募件数 | 助成件数 | 応募件数 | 助成件数 | 応募件数 | 助成件数 |
| (1) 研究会等の開催 (件) | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| (2) 体験事業の開催 (件) | 22 | 13 | 11 | 9 | 9 | 9 |
| (3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件) | 1 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 |
| (4) その他 (件) | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 (件) | 26 | 15 | 13 | 10 | 12 | 10 |

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第25回(2009年度)マツダ事業助成一覧 —科学技術振興関係—

| 事業名 ([]内は小・中・高生の参加者数) | 事業責任者 (役職は応募時) | 実施期間 |
|--|--|--|
| 山口・山陰エネ研科学講座 「電気を作ろう! ためよう! 活用しよう!」 参加者数:140名 [内、126名] | 開催地:松江市、 出雲市 重松 宏武 山口大学教育学部 准教授 | 2009.8.8、8.9、8.11 |
| ペーパーライダー工作講座開催事業 参加者数:33名 [内、19名] | 開催地:津山市 佐藤 誠 津山工業高等専門学校 教授 | 2009.7.26 |
| 岡山大学農学部ジュニア公開講座 「これでみんなも岡大ライス博士」 参加者数:33名 [内、15名] 講演:4 | 開催地:岡山市 齊藤 邦行 岡山大学 自然科学研究科 教授 | 2009.6.20、8.1、 10.10、12.12 |
| メカトロの初歩の初歩 -スイッチからはじめよう- 参加者数:22名 [内、12名] | 開催地:東広島市 樹野 淳也 近畿大学工学部 講師 | 2009.8.29 |
| 天体観測会 -君も未来のガリレオだ! 参加者数:135名 [内、73名] 講演:5 | 開催地:津山市 佐々井 祐二 津山工業高等専門学校 教授 | 2009.6.1、7.22、8.3、 11.20 2010.1.29 |
| パスタコンテストへの挑戦 参加者数:46名 [内、46名] | 開催地:隠岐郡 広瀬 望 松江工業高等専門学校 准教授 | 2009.7.10、7.11~ 7.12、8.9 |
| 岡山大学公開講座 「果実のおいしさのひみつさぐれ」 参加者数:13名 [内、13名] | 開催地:岡山市 難波 和彦 岡山大学大学院環境学研究科 教員 | 2009.8.25~8.26 |
| おもしろモノづくり教室 ステンドグラスをつくろう 参加者数:35名 [内、35名] | 開催地:宇部市 徳永 仁夫 宇部工業高等専門学校 准教授 | 2009.8.27、11.1 |
| ものづくり自然体験学習 「ダンボールボートで君も船長!」 参加者数:50名 [内、30名] 講演:1 | 開催地:瀬戸内市 西村 次郎 岡山理科大学工学部 教授 | 2009.8.1~8.2 |
| 瀬戸内海を対象にした企画展における 科学体験事業の実施 参加者数:215名 [内、205名] | 開催地:広島市 石川 菜央 広島大学総合博物館 助教 | 2009.8.1、8.8 |
| OUS サイエンス・プログラム-高分解能電 子顕微鏡を操作して原子の像を観よう- 参加者数:16名 [内、12名] | 開催地:岡山市 助台 榮一 岡山理科大学工学部 教授 | 2010.3.16 |
| 世界遺産「石見銀山」を照らすLED照明 工作 参加者数:40名 [内、40名] | 開催地:松江市 箕田 充志 松江工業高等専門学校 准教授 | 2009.12.23 |
| 平成22年度生物系三学会(日本動物学会・ 植物学会・生態学会)中国四国支部大会に おける高校生の研究発表 参加者数:268名 [内、78名] 講演:32、発表:88、シンポジウム:2件 | 開催地:山口市 藤島 政博 山口大学大学院理工学研究科 教授 | 2010.5.15~5.16 |
| こども鋳物教室 2009 参加者数:72名 [内、52名] 講演:2 | 開催地:広島市 旗手 稔 近畿大学工学部 教授 | 2009.11.8 |
| 触って楽しめる分子・原子の世界 参加者数:300名 [内、200名] 発表:1 | 開催地:米子市 谷藤 尚貴 米子工業高等専門学校 助教 | 2009.10.31~11.1 |
| 合計 | 15件 | 150万円 |

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第25回(2009年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるをえません。今日生涯の各段階において、人間形成上あるいは社会生活上、絶えず自ら学習することの必要が叫ばれ、そのための学習基盤の整備充実を進めることが求められておりますが、中でも青少年段階におけるそれは重要であると考えます。

こうした青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、その一助として費用の一部もしくは全部を助成します。

(b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野：①青少年をとりまく環境 ②コミュニティづくり ③ボランティア育成 ④科学体験
⑤前各号に類する分野

(c) 募集方法

研究者の所属する機関の代表者による推薦方式

(d) 推薦依頼先

国・公・私立大学教育学部を主体に青少年健全育成関係機関の機関長

| | |
|-----------|------------------|
| (e) 助成金総額 | 400万円 |
| (f) 助成件数 | 4～5件 |
| (g) 助成期間 | 1年または2年 |
| (h) 募集期間 | 2009年4月20日～6月30日 |

(2) 応募状況

締め切りまでに36件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

| | | |
|---------|-------------|----------|
| (a) 地域別 | ・中部以東 | 21件(58%) |
| | ・関西以西 | 15件(42%) |
| (b) 分野別 | ・青少年をとりまく環境 | 18件(50%) |
| | ・コミュニティづくり | 3件(8%) |
| | ・ボランティア育成 | 3件(8%) |
| | ・科学体験 | 5件(14%) |
| | ・前各号に類する分野 | 7件(20%) |

(3) 助成対象の選出

選考委員会(8月4日)において慎重審議の結果、助成候補として5件が選出され、第79回評議員会および第93回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成金贈呈書の贈呈

2009年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

| | 本年度(第25回) 2009年度 | 第24回 2008年度 | 第23回 2007年度 |
|-----------|---------------------|----------------|----------------|
| 応募件数(件) | 36 | 39 | 42 |
| 助成件数(件) | 5 | 7 | 6 |
| 助成比率(%) | 14 | 18 | 14 |
| 助成金総額(万円) | 400 | 550 | 460 |

(地域別状況)

| 地域 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|----------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | 左側 | 右側 | 左側 | 右側 | 左側 | 右側 |
| 中部以東(件) | 21 | 3 | 17 | 2 | 28 | 2 |
| 近畿(件) | 7 | 0 | 11 | 2 | 4 | 1 |
| 中国・四国(件) | 5 | 1 | 10 | 2 | 9 | 2 |
| 九州・沖縄(件) | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 合計(件) | 36 | 5 | 39 | 7 | 42 | 6 |

(左側数字: 応募件数, 右側数字: 助成件数)

(分野別状況)

| 分野 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|---------------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | 左側 | 右側 | 左側 | 右側 | 左側 | 右側 |
| 青少年をとりまく環境(件) | 18 | 2 | 21 | 2 | 21 | 2 |
| コミュニティづくり(件) | 3 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 |
| ボランティア育成(件) | 3 | 0 | 2 | 1 | 4 | 1 |
| 科学体験(件) | 5 | 1 | 7 | 1 | 7 | 1 |
| 前各号に類する分野(件) | 7 | 1 | 8 | 2 | 5 | 1 |
| 合計(件) | 36 | 5 | 39 | 7 | 42 | 6 |

(左側数字: 応募件数、右側数字: 助成件数、分類は審査時)

3. 第25回(2009年度) マツダ研究助成一覧 –青少年健全育成関係–

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

| 研究題目および研究概要 | 研究代表者 | 助成金額(万円) |
|--|--------------------------------------|--------------|
| <p>児童・生徒の学校外での自発的・継続的な学習を促進する科学体験プログラムの開発</p> <p>今日、多様な科学体験プログラムが提供されるイベントが盛況を収めている一方で、当該プログラムの効果が一過性のものであり、文化としての科学や生涯学習としての科学学習の定着という観点からは未だ不十分だ、という見方もある。プログラムの効果の時間的・空間的な広がり重視するならば、学校理科学習の状況や生涯学習への接続を考慮する必要があるであろう。そこで本研究では、児童・生徒の学校外での科学学習の場、機会、方法の広がりを促進しうる、科学体験プログラムの開発を目指すことにしたい。</p> | <p>内ノ倉 真 吾 静岡大学教育学部助教</p> | 85 |
| <p>地域の高校生を対象としたアントルプレナーシップ育成のための教育モデル、普及システムの探究</p> <p>本研究は、地域の高校生を対象としたアントルプレナーシップ（自ら行動し、人とのつながりを創る力）を育むための効果的な教材、授業カリキュラム、学びの共同体（コミュニティ）形成・普及モデルを探究するものである。まず、独自のケース教材開発、授業実践を中心としたアクションリサーチによって、効果的な教育モデルを構築する。そして、各地の大学生による実践を通して導出されたモデルを検証し、全国に広めていくことを目指す。本研究で得られた実践知は、青少年健全育成に十分に資すると信じている。</p> | <p>飯 盛 義 徳 慶應義塾大学総合政策学部准教授</p> | 85 |
| <p>不登校経験を持つ児童生徒へのソーシャルスキルトレーニングを用いたキャリア支援プログラム –適応指導教室での実践–</p> <p>本研究は、適応指導教室へ通級する不登校児童生徒に対して、ソーシャルスキルトレーニングを用いてコミュニケーションスキル獲得させ、次の進路や将来に対する夢などを考えるキャリア形成を支援プログラムの開発を行う。適応指導教室へ通級することから次への進路（進級時の学校復帰、中学・高校への進学等）を視野に入れて、三段階設定する。第一段階として、学校復帰に向けた自己プランニング（自分で生活計画を立案して、実行し振り返る）。第二段階、友達や教師との関わりのスキル再獲得（ソーシャルスキルトレーニング・コミュニケーションスキル）。第三段階は「職業インタビュー体験・サポート体験と発表」。自己肯定感と自尊感情、自己効力感への効果測定を行い、内面的な変化と指導員の観察による外面的変化とを合わせて効果を検証する。本研究は、適応指導教室における集団支援とキャリア形成（進路成熟）を視野に入れた学校復帰支援として位置づけられる。</p> | <p>杉 田 郁 代 環太平洋大学次世代教育学部講師</p> | 60 |
| <p>アメリジアンスクール・イン・オキナワにおける青少年健全育成を目的としたビデオワークショップ事業</p> <p>民間のフリースクールであるアメリジアンスクール・イン・オキナワ(以下、アメリジアンスクール)において生徒が自ら情報を発信し、多文化共生社会の確立へ向けた実践とその研究を行う。中学部の生徒を対象にビデオワークショップを開催しアメリジアンスクールのプロモーションビデオを制作する。生徒は映像制作の実践的な技術の習得を通して自己表現のスキルとメディアリテラシーの獲得を目指す。出来上がった映像作品は一般に公開し、地域社会とのネットワーク化を図りボランティア育成を行う。また、地域の子供たちには、多様な文化を受け入れる豊かで思いやりのある心を育む多文化教育の教材として使用する。さらには、他地域の様々な文化背景を持った青少年たちとの交流のツールとしても使用し、お互いの理解と協力を促す。あらゆる青少年への健全育成のモデル事業として、ビデオワークショップの可能性を検証する。</p> | <p>野 入 直 美 琉球大学法文学部准教授</p> | 80 |
| <p>建物と運用組織・制度の関係から捉える社会教育施設の“居場所の機能”に関する社会学的研究 –一部活動と社会教育施設の連携に向けて–</p> <p>次期学習指導要領で定められた、部活動と社会教育施設との連携に取り組むにあたり、社会教育施設は、部活動がこれまで果たしていた中高生が文化・スポーツ活動を“する機能”に加えて、中高生の“居場所の機能”をも担っていく必要がある。本研究では、いわゆる「ハコモノ」である社会教育施設が“居場所の機能”をどれだけ果たしうるかを検証するために、その建物の造りと施設の運用組織・制度との関係について、質問紙調査と見学・インタビュー調査を通して明らかにすることを目的とする。</p> | <p>西 島 央 首都大学東京大学院人文科学研究科准教授</p> | 90 |
| 合 計 | 5件 | 400万円 |

Ⅱ－２．市民活動支援

1．募集・応募・選出状況

第25回(2009年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- | | |
|--------------|--|
| (a) 対象活動 | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動 ①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯 ④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域 | 広島県、山口県 |
| (c) 支援期間 | 単年度支援 2009年4月1日～2010年3月31日の1年間 |
| (d) 支援金総額 | 800万円 |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円 |
| (f) 募集期間 | 2008年10月15日～2009年1月15日 |

(2) 応募状況

締切日までに97件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | |
|---------|---|
| (a) 地域別 | ・広島県 35件(36%) ・広島市 36件(37%) ・山口県 26件(27%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい 20件(21%) ・ボランティア育成 14件(15%) ・地域連帯 39件(40%) ・エコ 4件(4%) ・国際交流・協力 8件(8%) ・科学体験・ものづくり 12件(12%) |

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2009年2月27日、28日開催)での審議の結果、支援候補として、総計32件800万円が選出され、2009年3月26日開催の第77回評議員会および第91回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2009年4月15日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の25団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2009年4月23日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の7団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

| | 本年度(第25回) 2009年度 | 第24回 2008年度 | 第23回 2007年度 |
|------------|---------------------|----------------|----------------|
| 応募件数 (件) | 97 | 79 | 74 |
| 支援件数 (件) | 32 | 30 | 29 |
| 支援比率 (%) | 33 | 38 | 39 |
| 支援金総額 (万円) | 800 | 800 | 750 |

(地域別状況)

| 地 域 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|---------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | 応募 | 支援 | 応募 | 支援 | 応募 | 支援 |
| 広島県 (件) | 35 | 13 | 26 | 10 | 20 | 7 |
| 広島市 (件) | 36 | 12 | 35 | 11 | 34 | 14 |
| 山口県 (件) | 26 | 7 | 18 | 9 | 20 | 8 |
| 合計 (件) | 97 | 32 | 79 | 30 | 74 | 29 |

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

| 分 野 | 2009年度 | | 2008年度 | | 2007年度 | |
|----------------|--------|----|--------|----|--------|----|
| | 応募 | 支援 | 応募 | 支援 | 応募 | 支援 |
| 自然とのふれあい (件) | 20 | 4 | 11 | 1 | 12 | 3 |
| ボランティア育成 (件) | 14 | 5 | 14 | 7 | 11 | 6 |
| 地域連帯 (件) | 39 | 16 | 35 | 14 | 35 | 14 |
| エコ (件) | 4 | 2 | 9 | 4 | 6 | 3 |
| 国際交流・協力 (件) | 8 | 1 | 6 | 1 | 2 | 0 |
| 科学体験・ものづくり (件) | 12 | 4 | 4 | 3 | 8 | 3 |
| 合計 (件) | 97 | 32 | 79 | 30 | 74 | 29 |

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第25回(2009年度) マツダ市民活動支援一覧 -青少年健全育成関係-

| 活 動 名 | 団 体 名 (代 表 者) | 地 域 | 金 額 (万円) |
|---|---|-------------|--------------|
| 犯罪被害防止教室開催 | 広島県福山北警察署管内少年補導協働員連絡協議会 (会長 山田 敏弘) | 広島県 福山市 | 30 |
| こどもの広場 | こどもの広場実行委員会 (代表 遊井 勝美) | 広島県 広島市 | 30 |
| 東区障害児のためのサマースクール | 東区障害児のためのサマースクール (代表 馬本 佳代) | 広島県 広島市 | 10 |
| 文化伝承邦楽「箏」の伝承指導 | 邦楽グループ 城友会 (代表 宗廣 八江美) | 広島県 豊田郡 | 30 |
| 夢山コンサート～羽和泉 竹の楽団～ | 羽和泉みどりの少年団 (代表 野々村 陽子) | 広島県 三原市 | 30 |
| 学童工作教室の新展開と環境美化及び、地域資源を活かしたふれあいイベントによる地域社会の絆づくり | 晴海町・青社会 (会長 山本 正) | 広島県 呉市 | 30 |
| 小学生が楽しく実習して理科好きになる「地域と大学とのコラボによる竹炭・竹酢液・竹塩作り体験」 | 大道山竹炭工房 (代表 今井 邦夫) | 広島県 東広島市 | 30 |
| 学生による各種環境教育活動 | 大学環境ネットワーク協議会 (会長 森嶋 彰) | 広島県 広島市 | 40 |
| 子供達に文化の継承とボランティア演奏 | こども琴クラブ (代表 久保 真由美) | 広島県 東広島市 | 30 |
| ART PARTY | ART PARTY実行委員会 (代表 渡部 朋子) | 広島県 広島市 | 35 |
| 第12回猿猴川河童まつり | 段原地区町づくり協議会(猿猴川河童まつり実行委員会) (会長 高木 修一) | 広島県 広島市 | 20 |
| 加計小夢配達人プロジェクト推進事業巨大万華鏡づくり | 加計小夢配達人プロジェクト安芸太田実行委員会 (会長 河野 義文) | 広島県 山県郡 | 40 |
| 北広島町夢配達人プロジェクト推進事業(植物写真集作成) | 北広島町夢配達人プロジェクト実行委員会 (会長 小川 和夫) | 広島県 山県郡 | 30 |
| 認知症予防の「脳と体の健康ルーム(NPO運営)」の展開と若者サポーターの参加と育成プログラム | NPO法人うたしの会 (理事長 山田 トモ) | 広島県 広島市 | 15 |
| 障害児の余暇活動と支援 | 府中町手をつなぐ親の会 (会長 長尾 知絵子) | 広島県 安芸郡 | 20 |
| 歌による子どもたちの表現活動の支援 子ども・子育て情報紙の発行による地域の中での子育てを支援 | こどもステーション (代表 奥野 しのぶ) | 広島県 福山市 | 30 |
| 都市ギャラリープロジェクト | 広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム (准教授 金 泰旭) | 広島県 広島市 | 25 |
| エコ工作教室 | 広島環境サポーターネットワーク (常任幹事 増村 浩子) | 広島県 広島市 | 30 |
| 「蘇れ 母なる海 松永湾 パート3 みんなで考える環境保護」 | 環境市民ネット松永 (代表 国竹 卓美) | 広島県 福山市 | 30 |
| 田んぼの楽校 | 広島市ネイチャーゲームの会 (運営委員長 住吉 和子) | 広島県 廿日市市 | 30 |
| 西区ミニ障害児子どもまつり | こすもすの会 (代表 江本 桂子) | 広島県 広島市 | 15 |
| 親子わくわく科学教室 | 特定非営利活動法人三次科学技術教育協会 (専務理事 寺重 隆視) | 広島県 三次市 | 30 |
| 第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会 | 第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会実行委員会 (大会実行委員長 下田 達也) | 広島県 広島市 | 20 |
| 友楽タイムおいでよわせだっ子 | 早稲田学区青少年健全育成連絡協議会 (会長 石飛 正博) | 広島県 広島市 | 15 |
| みて！みて！平和のでっかい絵 | 社団法人 広島青年会議所 (理事長 松田 哲也) | 広島県 広島市 | 20 |
| 地域のお宝大発表会 in 田町商店街 | 萩子ども情報センター協議会 (会長 伊藤 邦恵) | 山口県 萩市 | 30 |
| 非行少年の更生と福祉に関する諸活動 | 山口少年友の会 (会長 石村 太郎) | 山口県 山口市 | 15 |
| わくわく土曜塾 | 長門市中央公民館事業企画運営委員会「わくわく土曜塾」担当 (運営委員長 林 義高) | 山口県 長門市 | 10 |
| 美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部事業 | 美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部 (会長 白井 優士) | 山口県 美祢市 | 10 |
| 「療育に関する事業(キラキラ☆キッズ)」 「余暇支援及び生活支援に関する事業(キラキラ☆クラブ)」 | NPO法人シンフォニーネット (理事長 矢野 一磨) | 山口県 下関市 | 30 |
| わくわく科学SUMMERフェスティバル2009 | 岩国科学をたのしむ会 (代表 原田 広子) | 山口県 岩国市 | 20 |
| ホテルのタベ | 富海をホテルの里にする会 (会長 平田 豊民) | 山口県 防府市 | 20 |
| 合 計 | 32件 | | 800万円 |

Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

(2) 共同開催

(財)広島市 ひと・まち ネットワーク、(株)損害保険ジャパンとの共催。

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市青少年野外活動センター

・2009年8月10日～8月12日

・テーマ：「生き物とくらし」

・ねらい 自然に触れることにより、自然に対する興味や関心を高め、自然を大切にしようとする心情を養う。

日頃あまり接することのない自然や生き物を観察することから、多様な種類の生き物がいること、人間と生き物の関わり、生命の尊さや生命を慈しむことを学ぶとともに、自然や生命に対する興味や関心を高める。

・参加者：小学3～4年生 53名

② 広島市三滝少年自然の家

・2009年8月24日～8月26日

・テーマ：「光とエネルギー」

・ねらい 身近な自然現象を通して科学の楽しさや不思議さを探求し、実験・工作等を通して感動体験を積み重ね、創造性や探究心を培う。

自然のエネルギーや新しい発見に目を向けさせ、実験・観察をすることにより、科学に対する興味や関心を持たせるとともに、問題解決能力を育てる。

エネルギーを作るとともに、省エネや環境についても考察させる。

・参加者：小学4～6年生 47名

③ 広島市似島臨海少年自然の家

・2009年9月13日、10月10日～10月12日

・テーマ：「ワンダー オブ ザ サンド」

・ねらい 子どもたちの理科離れが進んでいるため、周囲の自然に目を向けさせ、理科への興味・関心をもたせる。

集団行動をとることが苦手な子どもたちが増加しており、集団生活において必要なコミュニケーション能力を育てる。

・参加者：小学4～6年生 48名

(4) 助成金額

100万円(マツダ財団負担分)

Ⅱ－４．第２８回講演会

青少年健全育成に関する講演会を、講師に茂木 健一郎氏（ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー）を迎え、「脳を育てる習慣」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やPTAへ行い、また新聞紙上を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は2,000人の聴講者を迎え、盛会のうちに終えることができました。

講師からは、「脳を健康に育てるためには、不確実なことを恐れることなく受け入れ、むしろそこにある試行錯誤による学びを楽しもう」「子どもたちが不確実なことに立ち向かい、成長するためには、やはり何らかの確実性、支えが必要であるから、いつも見守ってあげる、成功したときには褒めてあげるといった“安全基地(英 心理学者 ジョン・ボールビー)”を大人たちが与えることが大切だ」「ドーパミンが出るような喜びの体験は、強く脳に記憶されるため、褒めて育てることが大切。子どもが良いことをしたら、その場ですぐに褒めてあげよう」といった、最新の脳科学の理論から、誰もがすぐに実践できる「脳を育てる習慣」まで、豊富な事例を交えてわかりやすく話して下さいました。

講演後のアンケートでは、「日々の生活の中で脳を活性化させることは、たくさんあるのだなと感じた」「生きることにはワクワク感をより感じられるようになった」「不況ですが、このような素晴らしい講演会を続けて下さい」といった多くの感想をいただき、聴講された方々には大いに満足していただけたものと察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 茂木 健一郎氏（ソニーコンピュータサイエンス研究所 シニアリサーチャー）
- (2) 演 題： 「脳を育てる習慣」
- (3) 開 催 日： 2009年11月16日(月)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール/ダリア
- (5) 聴講者数： 約2,000名

II-5. 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかな社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の3大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供による助成を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

1. 対象学生と目的

- (1)工学系学生 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点（環境・情報・国際化・技術者倫理等）について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。
- (2)人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

2. 特徴

- ①複数の協力機関からの講師陣
- ②キーワードによる講義の一貫性の保持
- ③大学毎の特徴づけ
- ④学生と講師の双方向授業

3. 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

| 大学名 | 講義科目 | 期間 | 協力機関 | 特徴 | 開講年度 |
|--------------|---------------------|--|--|--|-------|
| 広島大学 大学院 | 能力開発特論 (ジョイント講義) | 2009. 4. 10 ～ 2009. 7. 31 | 中国電力(株) 日本アパレル(株) (社)中国地域 ニュービジネス協議会 キャリアデザインオフィス マツダ(株) | 社会人・企業人として必要な技術の視点を理解し、それらを演習を通じて論理的にとらえ論述する能力醸成講座とした。34名が受講し、自らの関心事をディベート論題としてとりあげるなど、学生の積極的な取組みが評価できる講座となった。今年度は論題「日本は高速道路の休日上限1000円を拡張すべし」に取り組んだ。 | 1995年 |
| 広島文教 女子大学 | 国際協力論 (ボランティア活動) | 2009 5. 23, 30 集中講義 夏休み実 習 | ひろしま市民活動ネット →HEART to HEART 中国経済連合会 (特活)ANT-Hiroshima キャリアデザインオフィス ひろしままちづくりファ シリテーターズ | 広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。11名が13箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。 | 2000年 |
| 安田女子 短期大学 | 現代社会論 (ニュー価値観論) | 2009. 9. 18 ～ 2010. 1. 15 | ひろしま市民活動ネット →HEART to HEART マツダ総研 マツダ(株) | 前半の講義では、現代社会の仕組みを理解し、現代の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点からとらえるとともに、これからの生活者、社会人としての役割について、学生と一緒に考える機会を持った。後半の講義では、前半の講義に関連した演習テーマを設定し、それをグループ単位(受講者60名を8つのグループに編成)で調査、考察、発表することにより情報収集、分析、発表する能力を身につけさせた。 | 1998年 |

以上の他、県立広島大学「インターンシップ実習・ビジネスマナー講座」へ講師派遣を行った。

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅲ-1. 役員等に関する事項

1. 平成22年3月31日現在の役員・評議員の名簿

| 財団役職 | 名 前 | 就任年月日 | 最初の就任年月日 | 役 職 |
|--------|-------|---------------|-------------|--------------------|
| 理事長 非 | 山内 孝 | 平成20年4月1日(再任) | 平成19年6月27日 | マツダ株式会社 代表取締役社長 |
| 専務理事 非 | 黒沢 幸治 | 平成20年4月1日(再任) | 平成19年6月27日 | マツダ株式会社 常務執行役員 |
| 常務理事 常 | 山根 英幸 | 平成20年4月1日(新任) | 平成20年4月1日 | 財団法人マツダ財団 事務局長 |
| 理 事 非 | 荒川 詔四 | 平成20年4月1日(再任) | 平成18年4月1日 | 株式会社ブリヂストン 代表取締役社長 |
| 理 事 非 | 上田 宗冨 | 平成20年4月1日(新任) | 平成20年4月1日 | 上田宗箇流 家元 |
| 理 事 非 | 大田 哲哉 | 平成20年4月1日(再任) | 平成19年11月16日 | 広島商工会議所 会頭 |
| 理 事 非 | 大坪 文雄 | 平成20年4月1日(再任) | 平成19年6月27日 | パナソニック株式会社 代表取締役社長 |
| 理 事 非 | 片山 義弘 | 平成20年4月1日(再任) | 昭和59年10月26日 | 広島大学 名誉教授 |
| 理 事 非 | 川本 一之 | 平成20年4月1日(再任) | 平成18年4月1日 | 株式会社中国新聞社 代表取締役社長 |
| 理 事 非 | 櫛本 功 | 平成20年4月1日(新任) | 平成20年4月1日 | 広島大学 名誉教授 |
| 理 事 非 | 山野 正登 | 平成20年4月1日(再任) | 昭和59年10月26日 | 有人宇宙システム株式会社 相談役 |

(五十音順・敬称略)

| | | | | |
|-------|-------|----------------|------------|------------------|
| 監 事 非 | 友田 民義 | 平成20年4月1日(再任) | 平成17年4月1日 | 公認会計士 |
| 監 事 非 | 藤本 哲也 | 平成20年6月16日(新任) | 平成20年6月16日 | マツダ株式会社 財務本部副本部長 |

(五十音順・敬称略)

| 財団役職 | 名 前 | 就任年月日 | 最初の就任年月日 | 役 職 |
|---------|-------|----------------|------------|----------------------|
| 評 議 員 非 | 赤岡 功 | 平成21年4月1日(再任) | 平成19年6月27日 | 県立広島大学長 |
| 評 議 員 非 | 浅原 利正 | 平成21年4月1日(新任) | 平成21年4月1日 | 広島大学長 |
| 評 議 員 非 | 大杉 節 | 平成21年4月1日(新任) | 平成21年4月1日 | 広島大学宇宙科学センター長 |
| 評 議 員 非 | 佐藤 次郎 | 平成21年4月1日(再任) | 平成14年4月1日 | 財団法人日本語教育振興協会 理事長 |
| 評 議 員 非 | 竹林 守 | 平成21年4月1日(再任) | 平成18年6月19日 | マツダ株式会社 相談役 |
| 評 議 員 非 | 三浦 房紀 | 平成21年4月1日(再任) | 平成18年6月19日 | 山口大学大学院 理工学研究科長・工学部長 |
| 評 議 員 非 | 矢野 薫 | 平成21年4月1日(再任) | 平成18年6月19日 | 日本電気株式会社 代表取締役執行役員社長 |
| 評 議 員 非 | 山木 勝治 | 平成22年3月24日(新任) | 平成22年3月24日 | マツダ株式会社 代表取締役副社長執行役員 |
| 評 議 員 非 | 山中 昭司 | 平成21年4月1日(再任) | 平成16年4月1日 | 広島大学大学院 工学研究科 教授 |
| 評 議 員 非 | 山西 正道 | 平成21年4月1日(再任) | 平成15年4月1日 | 広島大学 名誉教授 |
| 評 議 員 非 | 吉田 総仁 | 平成21年4月1日(新任) | 平成21年4月1日 | 広島大学大学院 工学研究科長・工学部長 |
| 評 議 員 非 | 渡辺 一秀 | 平成21年4月1日(再任) | 平成19年6月27日 | マツダ株式会社 相談役 |

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

・赤岡 功、佐藤 次郎、竹林 守、三浦 房紀、矢野 薫、山中 昭司、山西 正道、渡辺 一秀の8氏は、平成21年4月1日評議員に再任された。

浅原 利正、大杉 節、藤原 陸躬、吉田 総仁の4氏は、平成21年4月1日評議員に選任された。

藤原 陸躬氏が平成22年3月23日評議員を退任し、山木 勝治氏が平成22年3月24日評議員に選任された。

荒川 詔四氏及び大坪 文雄氏は平成22年3月31日理事を退任した。

矢野 薫氏は平成22年3月31日評議員を退任した。

・山内 孝、黒沢 幸治、山根 英幸、上田 宗冨、大田 哲哉、片山 義弘、川本 一之、櫛本 功、山野 正登の9氏は、平成22年4月1日理事に再任された。

山根八洲男氏は平成22年4月1日理事に選任された。

友田 民義氏及び藤本 哲也氏は平成22年4月1日監事に再任された。

三浦 房紀氏が平成22年4月8日評議員を退任し、堀 憲次氏が平成22年4月9日評議員に選任された。

Ⅲ－２．職員に関する事項

| 役職名 | 名 前 | 就任年月日 | 主たる担当職務 |
|----------------|--------------|------------------------|--|
| 事務局長 事務局長代理 | 山根英幸 西川俊秀 | 平成20年3月1日 平成20年7月1日 | <ul style="list-style-type: none"> ・事務局統括 ・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項 ・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項 ・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項 ・大学講義開講に関する事項 |
| 事務局長代理 | 永松貴文 | 平成13年5月1日 | |
| | 世良和美 | 平成17年7月1日 | |
| | 河村英子 | 平成16年8月1日 | |

Ⅲ－３．理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

| 会議名 | 開催年月日 | 議事事項 | 会議の結果 |
|---------|------------|--|--|
| 第92回理事会 | 平成21年6月19日 | 議案：平成20(2008)年度事業報告及び収支決算承認の件 | 原案どおり承認可決 |
| 第93回理事会 | 平成21年9月25日 | 議案1：第25回(2009年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 議案2：第26回(2010年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件 議案3：マツダ株式会社との出向契約締結の件 | 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 |
| 第94回理事会 | 平成22年3月24日 | 議案1：評議員1名選出の件 議案2：平成22(2010)年度事業計画及び収支予算決定の件 議案3：第26回(2010年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)決定の件 議案4：新制度における最初の評議員の選任方法決定の件 | 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 |

(評議員会)

| 会議名 | 開催年月日 | 議事事項 | 会議の結果 |
|----------|------------|--|---|
| 第78回評議員会 | 平成21年6月19日 | 議案：平成20(2008)年度事業報告及び収支決算承認の件 | 原案どおり承認 |
| 第79回評議員会 | 平成21年9月25日 | 議案1：第25回(2009年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 議案2：第26回(2010年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件 議案3：マツダ株式会社との出向契約締結の件 | 原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認 |
| 第80回評議員会 | 平成22年3月24日 | 議案1：平成22(2010)年度事業計画及び収支予算承認の件 議案2：第26回(2010年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 議案3：新制度における最初の評議員の選任方法承認の件 議案4：理事10名選任の件 議案5：監事2名選任の件 | 原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認 原案どおり承認 |

(本年度の主な活動 -上記会議以外)

| 活動項目 | 実施年月日 | 概要 |
|--|---|---|
| 第25回マツダ研究助成候補の募集 大学講義(広島大学大学院) | 平成 21.4~6 21.4.10~7.31 | 科学技術振興関係、青少年健全育成関係 「能力開発特論(ディベート演習)」 |
| 第25回(2009年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈 | 21.4.15、4.23 | 助成32団体に対し、贈呈書を贈呈 |
| 科学わくわくプロジェクト「科学塾研究室」開講 大学講義(広島文教女子大学) | 21.5~22.2 21.5.23、5.30 | 広島大学との連携事業 「国際協力論(ボランティア活動)」 |
| 科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催 | 21.5.31、8.8~8.9 10.25、12.23 | 広島大学との連携事業 |
| 平成21年度選考委員会(科学技術振興関係) | 21.7.24、7.25 | 第25回マツダ研究助成対象の審議・選出 |
| 科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催 | 21.8.2、12.26 | 広島大学との連携事業 |
| 平成21年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係) | 21.8.4 | 第25回マツダ研究助成対象の審議・選出 |
| 「感動塾・みちくさ」実施 | 21.8.10~8.12 21.8.24~8.26 21.9.13、10.10~10.12 | (財)広島市ひと・まちネットワークと共催 |
| 大学講義(安田女子短期大学) | 21.9.18~22.1.15 | 「現代社会論(ニュー価値観論)」 |
| 第25回マツダ研究助成贈呈書の贈呈 | 21.10~11 | 助成対象者に対し、贈呈書を贈呈 |
| 第26回(2010年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集 | 21.10~22.1 | 広島県、広島市及び山口県の青少年健全育成 主管部門に推薦依頼 |
| 第28回講演会 | 21.11.16 | 講師：茂木健一郎氏 演題：「脳を育てる習慣」 |
| 平成22年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係) | 22.2.26、2.27 | 第26回市民活動支援対象の審議・選出 |

Ⅲ-4. 主務官庁届出に関する事項

| 届出先 | 届出年月日 | 届出事項 |
|----------------------------|-----------|--------------------|
| 文部科学大臣(文部科学省研究振興局振興企画課奨励室) | 平成21.4.6 | 登記事項(理事)の変更届 |
| 文部科学大臣(文部科学省研究振興局振興企画課奨励室) | 平成21.6.25 | 平成20年度事業報告及び収支決算報告 |
| 文部科学大臣(文部科学省研究振興局振興企画課奨励室) | 平成22.3.26 | 平成22年度事業計画及び収支予算届 |

Ⅲ-5. 主務官庁認可に関する事項

| 届出先 | 申請年月日 | 申請事項 | 認可年月日 |
|--------------------------------|-----------|--|-----------|
| 文部科学大臣 (文部科学省研究振興局振興企画課奨励室) | 平成22.3.25 | 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する 法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律 第92条の規定により、最初の評議員の選任に関 する理事の定めについて認可を受けるための申請 | 平成22.4.26 |

Ⅲ-6. 登記に関する事項

| 登記先 | 登記年月日 | 登記事項 |
|------------|----------|---|
| 広島法務局海田出張所 | 平成21.4.2 | 理事変更登記 ・平成21年3月31日 下記3氏 理事を辞任 浅原 利正、藤原 睦躬、吉田 典可 |